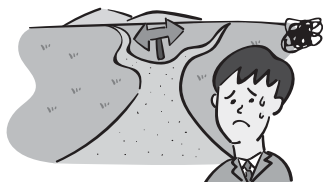


鹿市區郷壇



(499)

樋口 一風 選

兼題「道(みつ)」

天

清滝支部 鮫島爺児医

医者ん道つ歩んで来たが後悔あ無し
 (唱) 難儀あしたがこいが天職
 (評) 長い医療事業だったのでいろいろ
 なことが、有ったであるうに、只ひたす
 らに、医の道を歩いてきた、お医者さん
 の自負心が表れています。石原裕次郎の
 「我が人生に悔いは無し」を唄いたくな
 ります。これが自分に与えられた天職と
 信じて生きた、男の一生はこう有りたい
 ものです。何も言つことはありません。
 「後悔あ無し」で決まりです。

地

伊敷支部 谷山五郎猫

道の無が畦を走らす古かナビ
 (唱) 一〇年前すや田圃じゃったで
 (評) 昔の車のナビは、現地と照合不足
 で、ナビ上では道の無い田圃や橋のない
 川を渡っていたりしたことがありました。
 さすがに、今のナビは風景まで映し出し
 てくれてびつくりします。目的の住宅の
 玄関までハッキリ写るので間違わないで
 行けます。便利になったものだと、隔世
 の感があります。

人

上町支部 吉野なでしこ

投打をば極めつ光つ野球道
 (唱) 殿堂い入つて神ち言われつ
 (評) 人間が生きて来て、それぞれの道
 を極めるには、並大抵のことでは成就し
 ないでしょう。他人には言えないような
 大変な苦勞と努力が有ったことでしょう。
 道を極めるには修行と修業があるが、
 どちらにしても精神的にも、悟りに近い
 のかも分かりません。

五客一席 紫南支部 二軒茶屋電停

若け者に道で抜かれりや抜つ返つ
 (唱) 年齢も考げじ丸で競争

五客二席 清滝支部 鮫島爺児医

先生が教えた道で運が開れつ
 (唱) 敵しかつたが今でな感謝

五客三席 飛脚子一郎

帰い道ちやけ迷れちよつた酔れん坊
 (唱) 玄関み鬼の女房が待つちよつ

五客四席 伊敷支部 谷山五郎猫

道つば説つ年長ん話しなウゼち青年
 (唱) 時代が違ごち端から嫌ろつ

五客五席 清滝支部 鮫島爺児医

どつかでか道つば間違た分かれ道
 (唱) 気が付たときな凄ぜ遠回り

秀逸

清滝支部 鮫島爺児医

散歩いな草道つ選つて遠回り
 道つ尋たや此処じゃんさおち恥ねこつ
 句の道もでこぼこあつて終わや無し
 行つ帰い道が違ごたや孫が心配
 砂道も舗装されたや埃や無し

上町支部 吉野なでしこ

悪戯坊道標すい蹴い倒けつ

伊敷支部 谷山五郎猫

道が違ご痴呆ち言わるい歳しけなつ
 カーナビは裏道つ知たじ遅刻くしつ

飛脚子一郎

増えた家族今度だ四人で道つ歩ん

薩摩郷句鑑賞

138

薩摩狂句曆から 三條風雲児著
 月給前財布ん銅貨でも一日食つ

西原 末男

選挙の時になると、やれ税金を軽くす
 るの物価を下げるのと、まるで明日から
 でも生活が豊かになりそうな話を聞かさ

れるけれども、庶民の暮らしは一向によ

くはならない。出費を切りつめ、儉しい
 生活をして、給料前になると四苦八苦、
 十円硬貨までかき集めての生活を、金パッ
 ジの先生方は「存じないのかもしれない」。

作句道場

入門編 今月の掲載の中から

「道つ」は「道を」。「道をば」(古語で
 狂句では、「を」を「と」よく使つ)
 は「道つば」とか「道ちよ」とか。

「後悔」は「後悔」。

「玄関」は「玄関」。「玄関に」は「玄関

み」または「玄関に」。「玄関を」は

「玄関ぬ」。

「年長者」は「年長者」。「大人」も

「大人」。

「心配」は「心配」。「心配になる」は

「心配つえなつ」。

「恥ね」は「恥ずかしい」。

「運」は「運」。「運」という所もある。

「遅刻く」は「遅刻を」。

「違ごたや」は「違つたら」と言つ意味。

「返つ」は「返す」。

「帰つ」は「帰る」また、「戻る」も

「戻つ」です。「戻した」は「戻でた」。

「け迷れ」は「迷つ」で「け」は意味
 を強める言葉で、「け」は、鹿児島では
 よく使つ、「け死ん」「け壊えた」など。
 鹿児島弁は複雑です。少しずつ覚えて
 下さい。

薩摩郷句募集

8号

題吟 「暑き(ぬき)」

締切 令和3年7月5日(月)

9号

題吟 「手(て)」

締切 令和3年8月5日(木)

選者 樋口 一風

漢字のわからない時は、カナで書い
 て応募ください。選者が適宜漢字を
 あててくださいます。

応募先 千八九一・〇八四六

鹿児島市加治屋町三番十号

鹿児島市医師会 鹿児島市医報 編集係

TEL 〇九九・二二六・三三七

FAX 〇九九・二二五・六〇九九

E-mail: ihou@city.kagoshima.med.or.jp